

### 第3節【畜産部門】地域と調和した畜産経営の実現

#### 1 10年後の目指す姿

- ◎地域では飼養管理の省力化と飼料生産等の外部化が進み、労働生産性が向上しています。
- ◎耕種農家と繋がりを持ち、地域と調和した畜産経営が実現できています。
- ◎気象災害等への備えができており、万が一の際にも生産活動が速やかに再開します。
- ◎家畜ふん堆肥が有効活用され、環境と調和した持続可能な経営が展開されています。

#### 2 現状と課題

- ①地域の畜産は高齢化・後継者不足のため、経営の継続には外部からの雇用労力の確保や外部組織への作業委託の検討が重要となっています。
- ②長期的な経営安定のためには、スマート農業技術等による労働力補完や暑熱対策等の飼養管理技術の向上が必要となっています。
- ③輸入飼料価格の高騰によって経営が大きな影響を受けるため、耕種農家と連携した飼料自給の取組が重要となっています。
- ④台風などの影響による停電時でも営農の継続が可能な備えが必要となっています。
- ⑤畜産経営においては環境問題が経営継続の障害の一つであり、臭気や衛生害虫の発生に対するより一層の改善対策が求められています。

#### 【数値目標】

項目	現状（令和3年度）	目標（令和7年度）
乳用牛平均産次数	2.6産	2.8産
WCS用イネ地域内 作付面積・生産量	68.8ha ・6,300ロール	70.0ha ・6,700ロール
飼料用米地域内利用量	1,450t	1,800t

### 3 主な取組内容

- ①飼料生産等の農作業を受託するコントラクターなど、作業を外部化する組織の育成・強化を推進します。【企】【普】
- ②生産効率の向上のため、飼養データの管理を中心としたスマート機器や暑熱対策技術の導入を支援します。【普】
- ③飼料コストの低減のため、耕種農家と連携した自給飼料の利用と生産拡大を推進します。【企】【普】
- ④地域と調和した持続可能な畜産経営のため、堆肥の地域内循環および臭気対策を推進します。【企】
- ⑤経営の改善に資する農作業機械や生産関連施設の取得のため、畜産クラスター事業等の補助事業や制度資金の活用を支援します。【企】
- ⑥台風等にもともなう停電や生産基盤の損壊など、万が一の際にも生産活動が速やかに再開できるよう、気象災害への備えを推進します。【企】



自動給餌機を活用した省力化



稲WCS（ホルクローフサイレージ）の収穫